

井原市公共交通会議（平成 28 年度第 1 回）議事録

と き 平成 28 年 4 月 28 日（木）

10 : 00 ~ 11 : 00

ところ 井原市民会館 鏡獅子の間

1. 開 会

会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 25 名中 実出席 25 名

2. 委嘱状の交付

3. 三宅会長あいさつ

4. 役員を選出

5. 報 告

平成 27 年度井原市公共交通会議事業報告について

・ 事務局説明

（三宅会長） 委員の皆さんから、ご質問等はないか。

（委 員） これまでの路線・ダイヤの見直し等により、市内の公共交通ネットワークは概ね完成しつつあり、取組の軸は公共交通の利用促進に移っている。そうした中で、バス体験学習会を継続的に開催し、追跡調査により効果を検証していることは非常に良いことである。

一点質問したい。公共交通かわら版第 24 号（平成 27 年 2 月発行）において、井原バスセンター1 階の多目的室「かなめ」を PR した結果、家族の食事会に利用されたということだが、利用者に対して、多目的室「かなめ」を利用した感想等についての取材は行ったのか。

（事務局） 指定管理者である北振バス株式会社からの月次報告により、初めて知ったというのが実態である。

（委 員） 多目的室「かなめ」の利用に当たっては、駐車場の少なさが問題となっている。食事会や同窓会といった様々な場面での活用が広まりつつあるが、今一層の PR が必要である。

（委 員） 井原バスセンターの開業は、ここ数年の大きな変化である。多目的室「かなめ」を楽しそうに利用している写真を公共交通かわら版に掲載し、「この様な使い方もできます」と PR することで、住民やバス利用者の側から、新しい利用方法を提案してもらえるかもしれない。指定管理者と連携して積極的な PR を行っていただきたい。

（三宅会長） 多目的室「かなめ」は、バスを間近で見ることができる場所でもあるため、少年団や子ども会等の活動にも活用してもらえればよいと思う。

（委 員） バス体験学習会について、平成 27 年度は 5 回開催したということだが、開催頻度をもう少し増やしてはどうか。

（事務局） 昨年度は、市内のすべての小学校、幼稚園及び保育園に案内を送り、応募があった所を対象に開催した。昨年度は、例年に比べて開催回数が若干少

なかったので、今年度は周知をしっかりと行い、開催回数を増やしたい。

(三宅会長) いずみ保育園でのバス体験学習会に参加したところ、子どもたちがとても喜んでおり、バス事業者の乗務員の説明も大変わかりやすかった。交通事業者と連携して学校等へ積極的に出向くよう、事務局にお願いしたい。

6. 協 議

1) 平成 27 年度井原市公共交通会議歳入歳出決算について

・事務局説明

・ 監査報告（佐藤須賀則委員）

(三宅会長) 委員の皆さんから、ご質問等はないか。
ご質問等がなければ、報告のとおり承認してよいか。

委員拍手（協議事項承認）

2) 平成 28 年度井原市公共交通会議歳事業計画（案）について

3) 平成 28 年度井原市公共交通会議予算（案）について

・事務局説明

(三宅会長) 委員の皆さんからご質問等はないか。

(委 員) 昨年度に開催した住民意見交換会の出席者から、出席者を地域の代表に限るのではなく、公民館単位で広く周知した方がよいのではという意見があった。本年度予定している住民説明会や意見交換会は、誰を対象にどの程度の規模で開催するのか。

(事務局) 昨年度は、地域公共交通網形成計画を策定するに当たり、様々な立場から意見を出してもらえよう、15 名程度の規模で開催した。本年度については、現時点で規模や回数等は決定していない。

(三宅会長) できるだけ多くの方から意見をいただきたいところであるが、住民全員に声をかけるのは現実的に難しいところもあり、地域の代表の方にとりまとめをお願いし、出席していただくのが現実的かと思う。

(委 員) 地区まちづくり協議会の下部組織として部会が設置されている地域があるが、そうした部会の一つとして、公共交通に関する部会の設置を市から地域に働きかけてはどうか。

(三宅会長) 地域の活動はそれぞれの地域に委ねており、行政の範疇を越えることにならないよう配慮する必要があるが、地区まちづくり協議会の中に公共交通について考えてもらう部会を設けてもらうことは可能だと思う。協働推進課と調整し、検討したい。

(委 員) 私たちも、できるだけ公共交通を利用しようとしているが、利用者の底辺を増やし、たくさんの人に乗ってもらうことが重要である。

(三宅会長) 委員の皆さんから、他にご質問等はないか。
ご質問等がなければ、報告のとおり承認してよいか。

委員拍手（協議事項承認）

4) ・ダイヤの見直し（案）について

・事務局説明

- (三宅会長) 委員の皆さんから、ご質問等はないか。
- (三宅会長) ごんぼう村線を、加谷バス停から 300m高梁市寄りの地点まで延伸することは、地域住民からの具体的な要請に基づくものなのか。
- (事務局) 備北バスの高梁～井原線を廃止した場合、麦の草口バス停と笹の丸バス停との間が空白区間となってしまう。乗降調査の結果によると、同区間のバス停を利用して芳井・井原方面へ移動している人がいたため、車両の転回が可能な最も高梁市寄りの場所を探したところ、当該地点が最適であったことによるものである。
- (三宅会長) 委員の皆さんから、他にご質問等はないか。
ご質問等がなければ、報告のとおり承認してよいか。

委員拍手（協議事項承認）

5) その他

- (三宅会長) 委員の皆さんから、ご質問等はないか。
- (委員) 先ほどから、良い意見をいただいている。バス体験学習会に関して、岡山運輸支局としては、子どもに加えて高齢者等の大人を対象とした取組も拡大していきたいと考えている。今後は、公共交通祭り等にも積極的に参加していきたいので、声をかけてほしい。
また、運転免許返納と組み合わせた取組も重要である。交通事故の削減にもつながるので、ご協力をお願いしたい。
- (委員) 委員の皆さんから、これだけ活発なご意見をいただけるのは、岡山県として大変ありがたいことである。
先ほど承認をいただいた、ごんぼう村線の延伸については、これをもって井原市公共交通会議としての協議が調ったということによいか。
- (事務局) そのとおりである。
- (委員) 本年 4 月より、自家用有償旅客運送に係る事務手続きが、岡山運輸支局から岡山県に移管されている。実施時期は 12 月ということで、まだ先であるが、時期を見て早めの手続きをお願いしたい。
また、他の自治体の公共交通会議に出席した際に、交通事業者から、路線・ダイヤの見直しの際には JR との接続を十分考慮してほしいという意見が出た。利用を活発にするためには、他の公共交通機関とスムーズに乗り継ぐことができ、かつ、できるだけ遠い場所まで移動できることが重要である。井原あいあいバスのダイヤを見直す際には、考慮してほしい。
- (事務局) 10 月の路線・ダイヤの見直しの際には十分に検討したい。
- (三宅会長) 井原鉄道の利用者数は、利用促進策等の効果により 5 年連続で増加している。市としても、井原鉄道との接続を常に配慮したいと考えているので、可能な限り、調整を図りたい。

7. 閉 会

以上